

令和8年度 河北町立河北中学校 経営方針

1 学校教育目標

【第7次山形県教育振興計画・基本目標】

ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

【第2次河北町教育振興計画・基本目標】

ふるさとに学び、互いに高め合いながら、いきいきと未来をひらく人づくり

【校訓】 創造 克己 協調

(1) 令和8年度 学校教育目標

つながりの中で自立する生徒の育成

私たちは、様々なつながりの中で生きています。家族や仲間代表される「人」とのつながり。学校という場所で新たな「学び」とのつながり。私たちをあたたく支えてくれる「地域」とのつながり。そして、これからの時代を生きるために「未来」とのつながりを大切にしながら、学校生活を送っています。

本校の生徒の多くは、この河北町という教育熱心な地域で、多くの大人に見守られながら成長してきました。そのため、素直で明るく、何事にも前向きに取り組む生徒がほとんどです。しかし、主体的に物事に取り組む態度や問題に直面したときに、自分で考え、判断し、行動する力には物足りなさを感じます。中学校は「自立して社会に貢献できる大人になるための基礎づくり」の時期です。変化の激しいこれからの時代をたくましく生き抜いていくためにも、「自立」することを意識して指導・支援にあたっていきます。

<自立する生徒の姿とは>

- ① 自分の行いに責任を持ち、自分で考え、判断し、行動できる
- ② できること、できないことを自覚し、助けを求めることができる
- ③ それぞれの違いや立場を尊重し、相手を思いやることができる
- ④ 自分以外の人や社会のために自分の力を役立てようとする

特に令和8年度は、①「自分の行いに責任を持ち、自分で考え、判断し、行動できる」生徒の姿を重点に掲げ、生徒の活動を支援していきます。

(2) 目指す生徒像・学校像・教師像

<目指す生徒像>

つながりの中で自立する生徒

学校教育目標が示すとおり、様々なつながりの中で自立する生徒を目指していきます。そのために、活動の中で自立のために育む資質・能力を意識していきます。

<目指す学校像>

生徒と教職員が学校教育目標達成に向けて協同する学校

学校教育目標達成に向けて、教職員と生徒が課題を共有し、協同して解決できる学校を目指します。

<目指す教職員像>

生徒の自立を支える教職員

生徒や保護者、地域との信頼関係を土台として、生徒の自立を促し、適切な支援を行うことのできる教職員を目指します。

(3) 「自立のために育む資質・能力」について

① 自ら判断して行動するための「思考力・判断力・表現力」

・習得した知識・技能を活用して課題を解決するための力

② 自らを見つめ、向上させるための「自己調整力・レジリエンス」

・自分の感情や行動をコントロールする力。困難を乗り越える力

・自分の学びを客観的に振り返って価値付けたり、課題を改善していく力

③ 互いを尊重し、高め合うための「コミュニケーション力」

・人の気持ちや感情、場の雰囲気を読み取り、意思疎通ができる力

④ 意欲的・主体的に学び活動するための「自己肯定感」「他者理解」

・ありのままの自分を肯定する、好意的に受け止めることができる感覚

特に令和8年度は、①自ら判断して行動するための「思考力・判断力・表現力」を重点に掲げ、生徒の活動を支援していきます。

2 経営の基本方針

- (1) 学校教育目標を意識し、生徒と教職員が同じベクトルで諸活動に取り組んでいきます。
- (2) 生徒や教職員の安全安心を最優先にしながら、教育環境を整え、教育活動を展開していきます。
- (3) あらゆる活動において生徒の主体的な取り組みを促し、自立につながる適切な支援を行っていきます。
- (4) 幼こ・小・中・高の学びのつながりを重視し、継続的な指導の充実に努めていきます。
- (5) 家庭や地域とのつながりを大切にし、学校運営協議会や学校評価を踏まえ、地域とともにある学校づくりに努めていきます。
- (6) 不易と流行を見極め、目的を明確にして、柔軟な発想で教育課程を見直していきます。

3 経営の重点

重点1：ウェルビーイングを目指し、居心地のよい学校づくり

- (1) 居場所づくりと絆づくりを大切にし、安心安全な環境の整備
 - ① 特別活動・道徳・総合的な学習の時間等の充実を図り、居心地のよい集団を目指す。
 - ② あらゆる教育活動の中で、多様性を認め合う関係づくりに努める。
- (2) 生徒主体の学校・学年行事の実施
 - ① 生徒と教職員が課題を共有し、協働できるような学校行事・学年行事等を計画する。
 - ② 班活動、学級会活動、学年自治会、生徒会が連携しながら、自治活動の充実を図る。
- (3) 心身の健康を自己管理する能力の育成
 - ① 基本的な生活習慣の確立やメディア利用の約束について、生徒と保護者への啓発を図る。
 - ② 体力の向上、気力の充実、健康の保持増進のための適切な指導を工夫し、自己管理能力の育成に努める。
- (4) 生徒一人一人の心に寄り添う教育相談機能の充実
 - ① 教育相談やQ-Uなどを活用して、深い生徒理解につなげるとともに、相談しやすい教師の姿勢を大切にし、生徒及び保護者との信頼関係を高める。
 - ② 教育支援委員会や校務支援ソフト等で、支援を要する生徒について情報共有し、必要な支援と適切な指導につなげる。
- (5) いじめ根絶と不登校への対応

- ① 生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を踏まえた指導と自尊感情を醸成する教育活動を仕組む。
 - ② いじめ・不登校の解消、問題行動の絶無に向けて、計画的で組織的な対応と関係機関との連携を強化し、当事者に寄り添った対応を行う。
- (6) 特別支援教育の充実
- ① 支援を要する生徒に関する情報共有と個に応じた支援の充実を図る。
 - ② 特別支援教育に関する研修機会を設定し、特別支援教育力の向上を図る。
- (7) 実効性のある働き方改革の推進
- ① タイムマネジメントを意識するとともに、ICT機器を有効活用し、事務の軽減を図る。
 - ② 目的や効果を吟味し、柔軟な発想で教育課程を見直すとともに、業務の精選を図る。

重点2：授業改善の推進と学力の向上

- (1) 生徒とともに創る主体的・対話的な授業
- ① 生徒自身が学習方法を選択したり、生徒の発言をつないで学びを深めたりするような「生徒が主役の授業」を目指し、生徒とともに授業づくりと行う。
 - ② ICT機器を積極的に活用し、個に応じた学びに対応するとともに、生徒のICT活用能力の育成を図る。
- (2) 小中連携を強化し、進路実現のために必要となる学力の定着
- ① 各種検査やテスト等の分析から、つけるべき力を把握し、授業改善につなげる。
 - ② 総合を核としたカリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的な学びを促進し、学びの深化と活用につなげる。
 - ③ 小中連携を強化し、系統的な学びや効果的で個に応じた家庭学習のあり方を追求し、進路実現のために必要な力を身につけさせる。
- (3) 教師の専門性を向上するための研修の充実
- ① 学校研究体制を充実させ、目指す生徒の姿を共有しながら教科を越えて、授業力向上に努める。
 - ② 日頃の教材研究の充実を図るとともに、校外研修にも積極的に参加し、教師の専門性を高める。

重点3：地域との連携で多様な学び・活動の保証

- (1) 総合的な学習の時間とキャリア教育の充実
- ① 町の教育資源を活用し、自ら課題を見つけ、考え、表現できる探究学習を推進する。
 - ② これからの時代を見据えて、3年間を見通したキャリア教育、進路学習を展開するとともに、生きていくうえで必要なスキルを様々な場面で身につけさせる。
- (2) 地域貢献活動・ボランティア活動の推進
- ① 学校運営協議会などで地域住民と生徒が一緒になって、地域の課題やボランティア活動等について話し合う機会を設ける。
 - ② 関係団体を連携しながら、地域行事への積極的な参加を促す。
- (3) 部活動と地域クラブとの連携を図り、生徒の活動の保証
- ① 生徒の自主性を尊重しながら、学校及び地域クラブの指導者間での連携を密にした指導を行うことで、生徒の成長を促す。
 - ② 河北町における部活動改革ガイドラインを踏まえ、関係団体と連携しながら、適切に部活動の地域展開が行われるように進めていく。